

## 『私の八月十五日～昭和二十年の絵手紙展』 ～12月20日まで開催～

### 10月は全日 開館します

▽会場 能古博物館・別館1・2階  
 ▽会期 7月31日(金)～12月20日(日)の  
 金、土、日及び祭日。10月は全日開館。  
 ▽主催 (公財)亀陽文庫 能古博物館  
 ▽協力 今人舎(本社国立市)  
 ▽協賛 「私の八月十五日の会」(森田拳次・代表理事)



(5歳)

北見けんいち  
 (きたみけんいち)



(28歳)

上田トシコ  
 (うえだとしこ)



(10歳)

赤塚不二夫  
 (あかつかふじお)



(9歳)

古谷三敏  
 (ふるやみつとし)



(6歳)

ちばてつや  
 (千葉徹弥)



(8歳)

高井研一郎  
 (たかいけんいちろう)



(8歳)

横山孝雄  
 (よこやまたかお)



(5歳)

山内ジヨージ  
 (やまうちじょーじ)



(6歳)

森田拳次  
 (もりたけんじ)

最初に井戸を掘った漫画家九人衆  
 マンガ外交のトップランナー



理事長兼館長

原 寛

漫画家にはなぜか引揚げ者が多い。それに気付

いた森田拳次さんの呼びかけで9人の漫画家が集まり、戦後50年の1995年に「中国引揚げ漫画家の会」が結成され、大型画文集の「中国からの引揚げ少年たちの記憶」が世に出た。

毛沢東の逸話から生まれた「水を飲むとき井戸を掘った人を忘れない」という有名なことわざは、日中の解釈に隔たりがあるという説も聞くが、わたしは勝手に森田さんから9人の漫画家を「最初に井戸を掘った漫画家九人衆」と呼んで、その長年の活動に敬意を表している。

森田拳次さんのお付き合いは約10年前に始まった。博多港には舞鶴や佐世保にあるような公立の引揚げ記念館がない。森田さんらの作品を利用して、博多港が日本最大の引揚げ港だった史実を市民に民間の手で伝えたいと話すと、快諾して下さった。

戦後70年の今年は「私の八月十五日の会」と出版社の今人舎がタッグを組んで「私の八月十五日」昭和二十年の絵手紙展」が実現した。館には35点の絵手紙が展示されている。

最近になって『漫画家たちのマンガ外交』(石川好著)が出版された。あの南京大虐殺記念館で森田さんらの企画展が長期開催されたというのだから驚く。オランダの新聞は森田さんらの地道な活動を「マンガ外交」と評価した。詳しくは2、3面の関連記事をお読みください。

※イラストは終戦時の漫画家九人衆「中国からの引揚げ 少年たちの記憶」から

# 『絵手紙』のマンガ外交

私の八月十五日・中国展  
南京、北京各地で大反響

5年前の尖閣諸島漁船衝突事件のさなか漫画家の森田拳次さん(当時71歳)は村山富市元首相らと北京を訪問した。森田さんの手記を紹介しよう。

2010年9月18日、北京郊外の盧溝橋にある中国人民抗日戦争記念館で日本の漫画家らによる『私の八月十五日』昭和二十年の絵手紙展』が開幕した。この日は79年前、満州事変が起きた日である。開幕式には村山元首相ら両国関係者が出席。元首相が自分の失敗談を引いて「自然体が一番、平和が一番」と飄飄と語ると、記念館の沈強館長が「この漫画展

を通じて来館者は平和の大切さを認識して欲しい」と挨拶。衝突事件をよそに和やかな交流風景を描いた。

例えば今から20年前の1995年、戦後50年の節目に、少年期を中国の大地で暮らした漫画家たちに呼びかけ「中国引揚げ漫画家の会」を結成、画文集『中国からの引揚げ・少年たちの記憶』を発刊したのが縁で、絵手紙集『私の八月十五日』昭和二十年の絵手紙』が生まれた。

そして2009年、中国人民日報社が中国語版を出版したのを機に、念願の中国での『私の八月十五日展』巡回展が実現した。敗戦後、この大陸を裸同然で逃げ回った私たちにとって夢のような出来事である。最初の南京は8月15日から2ヶ月の予定が11ヶ月間のロングランになり、会場の南京大虐殺記念館には

500万人近くの観客が訪れた。

南京展の初日は少し不安もあった。しかし、日本人も空襲にあって家族を亡くした人が多いことを知って涙ぐみ、「南京に来た日本軍人と違う日本人だ」と語った若者が印象的だった。一方、北京展の会場外で日中交流中止のデモ騒ぎがあったのも事実。これも中国の若者である。

そんな中で南京館の朱成山館長は7人の部下と共に北京に駆けつけ、成功のメールを送ってくれた。これもまた信義に厚い中国人の偽らざる姿である。

中国引揚げ漫画家の会・森田拳次

## 森田さん 来館 記念のイラスト描く

特別企画展開会初日の7月31日(金)、森田さんは能古博物館を初めて訪れた。テレビ局の取材を受けた後、別館のテーブルに広げた用紙にマジックペンを使って瞬間に書き上げたイラストがこれ(写真下)。最初に赤ペンで数字の8と15を中央に記すと、あとは一気に仕上げた。



戦後70年を記念し、各界の著名人91人が終戦の日の思い出を絵と文で記した『私の八月十五日』を出版した。故赤塚不二夫さんやちばてつやさんら漫画家に加え、日野原重明さんや故高倉健さんの体験も収められている。

「私の八月十五日の会」代表理事を務める漫画家 森田拳次さん



漫画家仲間との酒席で漏らすと、俺も、と口々に引き揚げ体験を打ち明けた。「絵が描ける者は絵で残すべきだ」。95年に前身の「中国引揚げ漫画家の会」を結成した。

6歳の時、旧満州・奉天藩きたのに……。99年、ちばさ陽)で迎えた終戦が「戦争の始まり」だった。ソ連兵が家に押し入り、腕時計を奪った。街頭では日本兵が八路軍に銃殺されていた。飢えと寒さで日本への出航を待つ港には遺体の山ができていた。京都府の舞鶴港に着き、都内の小学校に編入すると引き揚げ者への差別が待っていた。残留孤児の話で驚いたのは、かつての敵の子を美子と同じように育てた中国人がいたことだった。「僕たちは人の庭で好き勝手なことをして

=2015年8月19日付 西日本新聞朝刊=

## 今こそマンガが外交を

石川 好 (写真も)



ある国が、その時代、世界に影響力をもつたためには、ソフトパワーが重要であることは言うまでもありません。アメリカが戦後社会において今日に至るまで圧倒的な強さを見せているのは、アメリカ発の大衆文化、すなわちハリウッド映画やテレビドラマ、音楽、そしてショービジネスが、世界を独占しているからではないでしょうか。アメリカの政治や軍事力に嫌悪感をもつ人間でも、アメリカの大衆文化を否定する人は少ないのです。

アメリカとあれほど激しい戦争を経験した日本人が、戦後一変し、アメリカを迎え入れたのは、アメリカ映画やテレビドラマを見たかったからではないでしょうか。

現代において韓国の家電や自動車の世界有数の競争力をもった理由は、いわゆる「韓流」といわれる韓国のドラマやKポップが、アジアの若者の心を捉え、それが韓国製品への信頼感と認知度につながっているからです。

それに比べ、日本が誇るソフトパワーであるアニメやマンガについて、本家の日本のほうが軽視しているのではないのでしょうか。「クールジャパン」という言葉はあっても、それをアメリカや韓国のように国がしっかりと応援してきた

とは言えません。日本のマンガ・アニメの力を、政治家や政府は見直すべきです。

尖閣問題が起き、政府同士はなかなか口もきけない状況に入っていますが、日本政府が本気になって、中国世論を味方につけたいのであれば、日本の漫画家百人にお願いして、それぞれ十人ぐらいで一つのツアーをつくり、中国各地を巡回してもらうのはどうでしょうか。

二十一世紀の今日、日本の大衆文化が世界に誇る漫画を通じ、中国の草の根に入っていくという提案なのです。オランダの新聞記者が名づけたように、政府や外務省は「マンガ外交」を本気で考えたらどうでしょうか。多くの夢は限りがありません。

2009年8月15日

### 南京大虐殺記念館での開会式



**ことば** マンガ外交Ⅱオランダの新聞が中国に於ける森田拳次さんらの活動を「MANGA DIPLOMACY」と伝えた。これをきっかけにイタリアのミラノでも2011年秋、規模を縮小した『私の八月十五日展』が短期間ながら開催された。

《筆者紹介》いしかわ よしみ 1947年東京都大島町生まれ。慶應義塾大学法学部卒。1989年『ストロベリーロード』で第20回大宅壮一ノンフィクション賞受賞。新日中21世紀委員会委員、秋田公立美術工芸短期大学学長などを歴任。著書には本書のほかに、『60年代って何?』、『中国という難問』、『秋田について考えた事』など多数。



(編集部・注) 石川好氏の著書『南京大虐殺記念館からはじまった漫画家たちの漫画外交 MANGA DIPLOMACY』Ⅱ2015年7月発行・彩流社Ⅱの結びの一部を筆者の了解を得て編集、掲載しました。

# 「絵手紙展」余聞

## 高倉健さんの素顔を出展 能古島の東野光展さん

展示35人のひとり高倉健さんの珍しい写真を出展しています。亡くなる2年前の2012(平成24)年。長崎県の平戸市や長崎港外・伊王島で遺作となった映画『あなたへ』(降旗康男監督)のロケが行われ、車輛部門のスタッフを務めた能古島の漁業東野光展さん(51)は、健さんの素顔をカメラに収めました。特別展を機に東野さんから写真10数点が館に寄贈され、館はうち5点を健さんの絵手紙と一緒に公開しました。健さんの素顔をお楽しみください。

東野さんに聞きました。  
——日本酒の一升瓶を抱えた

健さんは? || 写真① ||

映画の撮影終了後、原宿(東京)で開いた打ち上げのとき。スタッフ、キャスト全員が集まった。飲めない健さんはサービス係。ぜんぜん元気でしたよ。

——健さんを囲んだ集合写真も

ありますね。 || 写真② ||

ロケ隊の車両部スタッフ全員で撮った1枚。最前列右端のしゃがんでいるのが私です。



▲写真②



▲写真①

——背後の灯台

はどこですか? || 写真③ ||

伊王島の灯台です。撮影の合間に撮ったもの。健さんは仕事着(映画の衣装)のままですね。

——ライフジャケット姿は?

|| 写真④ ||

伊王島でお茶をしているとき、乗ろうかとなってヨットを手配してもらった。プライベートな時間を一緒に楽しみました。

——夕日もそうですか?

|| 写真⑤ ||

いやこれはひそかに天草を訪ねたとき撮ったものです。知合いの墓参りが目的でした。



▲写真③



▲写真④



▲写真⑤

映画『あなたへ』 || 主演の高倉健(2014年11月10日没・享年83)は富山刑務所の指導技官役。故郷の海に散骨して欲しいと亡き妻(田中裕子)が託した絵手紙を受け取ったことから妻の故郷である長崎の港へ自家製キャンピングカーを走らせる。

# 「久しぶりの能古です」

## ばんば三郎さん来館

福岡市西区の有料老人ホームで暮らす漫画家のばんば三郎さん(89歳)が来館。自らの展示作品と対面した。(写真左)

ばんばさんは一兵卒として中国大陸で戦い21歳で敗戦を迎えた。部隊はいったん武装解除されたながら五ヶ月後に再武装して国共内戦に巻き込まれた友軍の救出作戦に出動、復員を前にした同年兵ら多数が死傷した。ばんばさんは救出隊員に選ばれなかった。

故郷の大牟田市に復員したばんばさんは西日本新聞社絵画課に就職。退職後は得意のイラストや似顔絵を描いて平和に暮らしてきた。展示作品のコメント末尾に「終戦後に戦死した人もいるこの平和」と書き添えた。



# 大連から佐世保 家族7人 柳行李ひとつ

## 68年前の引揚げ日記

木村寧海

私たち一家7人は敗戦後1年半過ぎた大連から昭和22年3月、佐世保港に引揚げてきました。引揚げ時の様子は長姉（当時21歳、平成17年没）の日記に残されており、混乱の中無事に帰国できたことが記されています。当時の日記に他の兄弟の記憶を加えて再現しました。

◇昭和22年◇  
▽3月11日（火）

協和館前集合。午後3時出発、第1収容所到着。6時、外で持参の夕食、夜はいささか冷える。7時半、倉庫の中に折り重なって寝る。

▽同日（水）晴

午前2時よりロスケの税関検査。6時半終了クタクタに疲れほこりにまみれてしまった。部屋の割り当ての後、



ソ連旅大地区占領軍水産省勤務時の腕章  
Служащий (従業員)  
Управления Уполномоченного (弁務官事務所)  
Министерства Рыбной Промышленности (水産省)  
г. Дальний (大連市)  
「大連」のロシア語名「Дальний」は、「遠い」の意。

荷物を運び、ほっとしていたところを食堂の使役に使われて兵隊（ロスケ）の食事をもらった。

※当時小学6年生の次姉の記憶に長姉は、終戦後、進駐したソ連旅大地区占領軍水産省に勤務していたので、出航前の荷物検査に通訳として駆り出され、腕章をつけて立ち会った。その姉が言うには、「ロシア兵は布団を刃物で切り裂き、引揚げ者が隠していた貴金属を探し出し、私物化していた」。

朝食は10時。白米、ニンジン、大豆。野菜の必要を痛感す。荷物の監視、掃除、使役多し。

▽同日（金）晴

出発の命ありにわかになぞわめく。11時、荷物をトラックで運び徒歩で埠頭に向かう。待つこと4時間半。雲仙、白龍、次々と出航。やがて大久丸に午後7時乗船。夕焼けのなつかしい大連港を去れど、少しも感情が起ころぬは不思議なり。3千人乗船。

### 「ロスケの馬鹿野郎」

#### 水葬の重石積む

※次姉の記憶に大連港を出発して約10分経過した頃、乗船した引揚げ者たちは大声で「ロスケの馬鹿野郎」と叫び、鬱憤を晴らした。皆の顔は晴れ晴れとしていた。

※当時小学3年生の兄の記憶に給食のダイコン飯を急な階段を船底まで運んだ。甲板にある大きな石を何に使うか聞いたところ、船上で亡くなった人を水葬する際の重石だった。

▽同日（月）夜11時、佐世保港外着。

▽同日（火）  
喜びの胸を抑えて近寄る港を眺め8時港内着。荷物だけ下船。注射、検疫に忙し。

▽同日（水）晴れ時々曇り

朝6時半下船。検疫所にて男女別れ、手荷物の検査、種痘、DDT散布。女子供だけ先に荷物運搬トラックにて山上に登り、600mほど徒歩で棧橋にゆく。暑いし荷物が重い。ポンポン船で美しい島々の間を抜けて針尾の収容所1号舎に入る。収容所に6日間滞在し、26日ふるさと白杵に帰郷。

※次姉の記憶に父が大連36年間で築いた全財産の放棄を余儀無くされ、柳行李一つと家族7人で、無事に日本の土を踏むことになったが、家族全員で引揚げが出来て良かったと言った父の言葉が忘れられません。

私（寧海）は当時6歳、佐世保上陸時に頭からDDTをかけられたことを覚えていません。

（編集部・注）福岡市在住の木村寧海さんから、引揚げの際に使った柳行李など数点を本館に寄贈したいとの申し出があり、当時を再現する「引揚げ日記」を書いていただきました。なお一部の不適切な表現は文章を生かすため原文のまま掲載しました。



▲柳行李 モンペ▼



### 木村寧海さんの話

父の篠田廣海（昭和48年没）は終戦時、大連市副市長でした。中国語が堪能だったこともあり、中華民国大連市政府の命令により大連市政府顧問官に就任、在留邦人の保護、日本政府の中国側への引き継ぎにあたりました。そのため帰国が遅れ、最後の引揚げ船のひとつ前の船に乗ることが出来ました。

きむら やすみ（写真も）  
1941（昭和16）年旧満州金州生まれ。西日本銀行（現西日本シティ銀行）国際部長退職後、九州大学、九州産業大学非常勤講師、福岡家庭裁判所調停委員を経て、現在福岡貿易会アドバイザー、九州中国研究会理事、九州古代史の会会長。



**来館者千五百人超える  
本年度前半の六ヶ月**

4月から7月末まで別館1階で開催した米倉斉加年さんの遺作絵本展「おとなになれなかった弟たちに・」は約千人の来館者を集めた。続く戦後70年特別企画『私の八月十五日』昭和二十年の絵手紙展Ⅱ写真下の2枚Ⅱも順調に客足を伸ばしている。別館1、2階の会場に8月266人、9月277人が訪れた。

**後半戦に期待** 10月の全日開館で客足に弾みをつけ、11、12月(金土、日、祭日開館)に繋げたい。天候が良ければ年度累計2千5百人の新記録も夢ではない。

**マスコミも好意的** 4月22日付け西日本新聞朝刊が大きく報じたのをはじめRKB、KBCなどがニュース番組で紹介。さらに西日本新聞朝刊1面の名物コラム『春秋』は8月3日付け紙面で取り上げ、同19日付け朝刊「ひと」欄Ⅱ2面に掲載Ⅱは下崎千加記者の筆で漫画家森田拳次さんのマンガ外交を詳報した。

**「末永い保存を」** 明確な意図をもって来館した方が多く、「フェリーに乗ってきた甲斐があった」との声が聞かれた。スイスで生まれ育った若い日本女性も福岡の祖母宅に帰省した機会に館を訪れた。「戦争が終わってからの大移動がこんなに大変だったとは、初めて知りました。この展示内容の大事さが末永く思い起こされ、保存されることを願います」とのコメントを記名帳に残した。



**待望の専用車 発車!**

能古博物館は昨年度の日本郵便・年賀寄付金の車両配分金を申請していたが、軽乗用車1台の購入が認められダイハツの軽乗用車タント(定員4人)Ⅱ写真下右Ⅱを購入した。配分額は購入資金の60割、残り40割と税金、保険料などは館側の負担。待望の専用車は高齢入館者の送迎、重量物の運搬、島内の連絡業務などに使う。

**館蔵の『養生訓』初版本  
九大医学歴史館に展示**

本館の理事長兼館長の原寛さんⅡ原土井病院理事長(83歳)Ⅱは8月13日夜、福岡市東区馬出の九大医学部百年講堂で開かれた「第1回歴史のうねりセミナー」で講演した。タイトルは「超高齢化社会と生活習慣病 養生訓に学ぶ」。隣接する九大医学歴史館Ⅱ写真下中Ⅱが主催した。これに因み本館所蔵の『養生訓』(貞原益軒著)初版本を同歴史館に展示Ⅱ写真下左Ⅱしている。詳細は同歴史館事務局(092-642-4856)へ。



**「米倉斉加年展」  
博多養生処で引越し開催**

好評裡に能古博物館での本展を終えた米倉斉加年の遺作絵本展「おとなになれなかった弟たちに・」は会場を福岡市博多区のリバレイン地下2階「博多養生処」に移し、規模をやや縮小して開催。8月8日の初日以来、入場無料で休まずに開催した結果、300人以上が訪れ、予想を上回る成績を挙げた。

来場者は場所柄から年配の女性が多く、夏休み期間中は祖父母に連れられた小学生、赤ちゃん連れのお母さんの姿もあった。

**新入会員の皆さん(敬称略)**

- 「協賛個人」古森英毅
- 「友の会」麻生静四郎、伊藤明夫、北原左近、島田美美子、白垣憲二

**主なグループ来館**

(平成27年7月～9月)

- ▼「7月」西区内浜中PTA16人、福岡で学び、働く外国からのJACS学生7人
- ▼「8月」福岡市立青少年科学文化会館「親と子の能古島自然観察の集い」50人、早良区大原公民館27人
- ▼「9月」島内「清和園」11人、(株)与志松76人



ようこそ博物館へ



**開館日** / 毎週 金曜・土曜・日曜と祝日  
 ※団体の場合は休館日にかかわらずご相談ください  
**開館時間** / 10:00~17:00(入館16:30まで)  
**入館料** / 大人400円・高校生以下無料  
 ※団体20名以上2割引

**★10月は全日開館しています。**  
 (注) 冬季(12月下旬~2月中旬)は、展示物入れ替えなどで長期休館を原則としています。御用の場合は事前にお問い合わせ願います。

渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表(平成27年10月現在) ※博物館へは「能古学校前」で下車して下さい。

渡船場前発 アイランドパーク行	平日	07:57	08:48	09:45	10:30	11:30	12:55	13:35	14:35	15:35	16:45	
	土曜日	07:57	08:48	09:45	10:30	11:30	12:55	13:35	14:35	15:35	16:45	
	日・祝日	07:57	08:48	09:45	10:30	11:30	12:55	13:35	14:35	15:35	16:45	18:00
アイランドパーク発 渡船場前行	平日	08:23	09:20	10:03	11:13	12:28	13:18	14:18	15:18	16:18	17:28	
	土曜日	08:23	09:20	10:03	11:13	12:28	13:18	14:18	15:18	16:18	17:28	
	日・祝日	08:23	09:20	10:03	11:13	12:28	13:18	14:18	15:18	16:18	17:28	18:38

※ 繁忙期は臨時便が運行されます。

**西鉄バス**

- JR博多駅より 博多口正面Aのりば  
300、301、302番「能古渡船場行き」: 約50分
- 天神より 三越前1Aのりば  
300、301、302番「能古渡船場行き」: 約30分

**市営地下鉄: 「姪浜駅」下車乗り継ぎ**

- 西鉄バス姪浜駅 北口  
98番「能古渡船場行き」: 約12分
- タクシー: 約8分

**市営渡船(フェリー)**

- 姪浜—能古島間: 約10分

**お問い合わせ**

姪浜旅客待合所  
TEL 092-881-8709

能古旅客待合所  
TEL 092-881-0900

**能古・姪浜航路 時刻表**

能古 発	8	10:00	16	17:30	
1	◎05:00	9	11:00	17	18:00
2	06:00	10	12:00	18	18:30
3	06:30	11	13:00	19	19:30
4	07:00	12	14:00	20	20:15
5	07:30	13	15:00	21	20:45
6	08:00	14	16:00	22	21:45
7	09:00	15	17:00	23	◎22:45

姪の浜 発	8	10:15	16	17:45	
1	◎05:15	9	11:15	17	18:15
2	06:15	10	12:15	18	18:45
3	06:45	11	13:15	19	19:45
4	07:15	12	14:15	20	20:30
5	07:45	13	15:15	21	21:00
6	08:15	14	16:15	22	22:00
7	09:15	15	17:15	23	◎23:00

※ 繁忙期は臨時便が運行され、バスの臨時便と接続します。

◎印は日祝日運休 平成27年10月現在